

◆◆◆ 新着資料の紹介 ◆◆◆

ひ ら せ け
平 瀬 家 資 料

～ 中仙地域（長野）の とある土蔵に残された資料 ～

大仙市アーカイブズでは、行政が作成した重要な公文書と地域に残された貴重資料を特定歴史公文書等として、保存活用のための整理作業を進めています。

令和元年度も大仙市アーカイブズには、11 人の方々から1万1千点を超える貴重な資料の御寄贈があり、今回の新着資料展ではその中から「平瀬家資料」の一部を紹介いたします。

展示資料は、大仙市中仙地域の長野地区でかつて呉服商を家業としていた平瀬氏（東京在住）から、土蔵に残されている資料について連絡を受けて、当館が現地（長野）で資料調査を行い、

1430点の近世から近代の資料を御寄贈いただいたものです。

平瀬家は江戸時代に代々「多右衛門」と名乗り、長野村の肝煎、親郷肝煎を務めたことや、江戸時代が終わり長野村の戸長として

戊辰戦争の戦後処理のした一端をうかがえる資料が残されています。

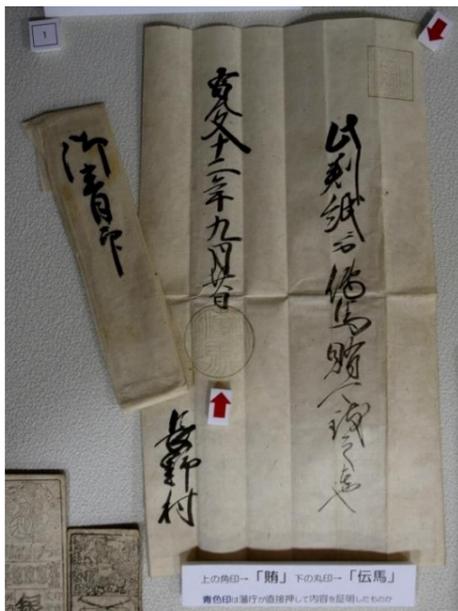
そのほか明治時代の辞令・委嘱状には県立農学校（現大曲農業高校）、北海道農業試験場職員、秋田県議会議員、郡役所書記、さらには長野村の村会議員、村長、学務委員、秋田県種苗交換会評議員など村を代表者するリーダーであった資料を通して当時の社会の様子も垣間見ることができます。

また、日露、太平洋戦時下の戦地からの便り、戦勝祈願の日の丸への寄書き、銃後の長野村婦人会の活動、子弟、子女教育の記録や写真など、家業を含めて一つ家の資料から江戸時代から戦前までの歴史に触れることができる資料群です。

こうした資料は、行政にはほとんど残されていないことから、個人資料の重要性と、そうした資料が地域の歴史を知ることのできる糸口につながってほしいと願って新着資料展の紹介とさせていただきます。

皆様からの資料情報をお待ちしております。

展示資料の紹介



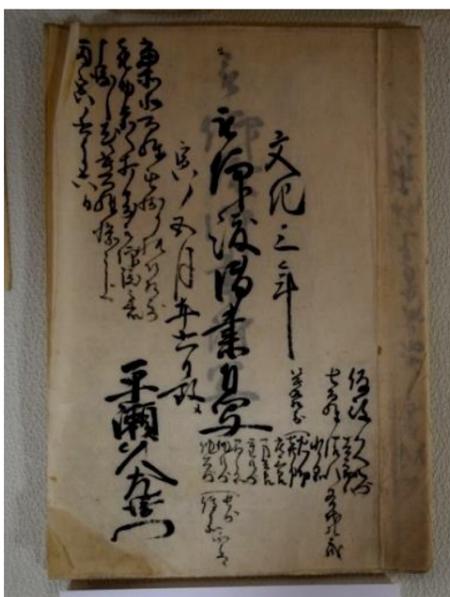
御青印 寛文 12 (1672)

長野村が伝馬の賄役であることを藩庁が青印を押して証明した資料。



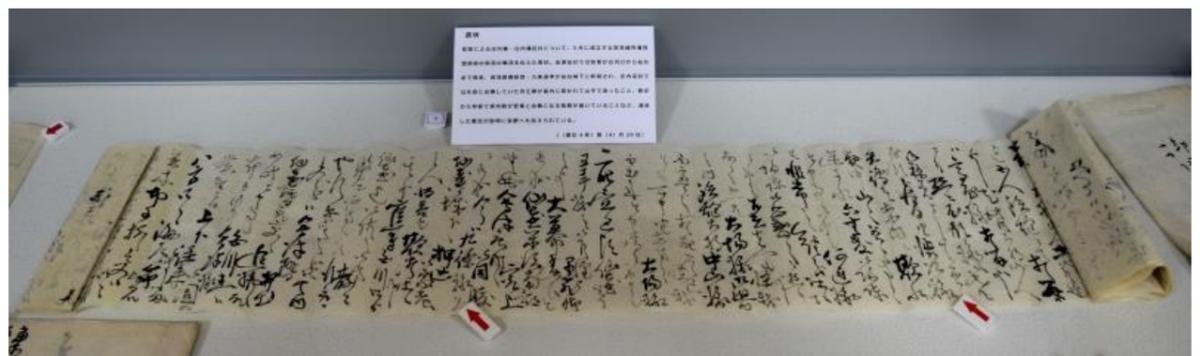
藩札 宝暦 4 (1754)

宝暦 4 年、財政が窮迫した秋田藩は、幕府から 25 年間の藩札発行を許可された。しかし、続く凶作と藩札乱発及び偽札の流通によって、物価の急騰とともに銀札（藩札）の貨幣価値が急落した。さらに、銀札発行と藩主の後継問題が絡んだ秋田藩のお家騒動に発展した。最終的に、銀札反対派が形勢を逆転させ、宝暦 7 年 7 月に藩札は廃止、推進派の多くは処分を受けた。



被仰渡御書付写 文化 3 (1806)

奉行や御役屋などからの指示連絡事項などを書き写したもの。



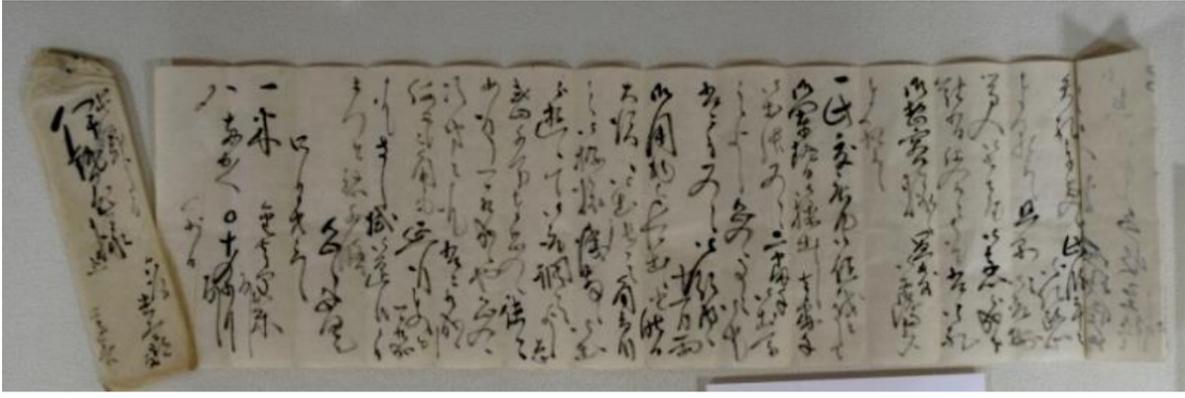
書状 慶応 4 (1868) 閏 (4) 月 29 日

戊辰戦争の戦況について、官軍による会津藩・庄内藩征討について、5 月に成立する奥羽越列藩同盟直前の奥羽の戦況を伝えた書状。会津征討では官軍が白河口から仙台まで敗走、奥羽鎮撫総督・九条道孝が仙台城下に軟禁され、庄内征討では矢島に出陣していた渋江隊が案内に欺かれて山中で迷ったこと、新庄から早籠で奥州勢が官軍と合戦になる風聞が届いていることなど、ひっ迫した戦況が即時に長野へも伝えられている。

親郷・寄郷制と親郷肝煎

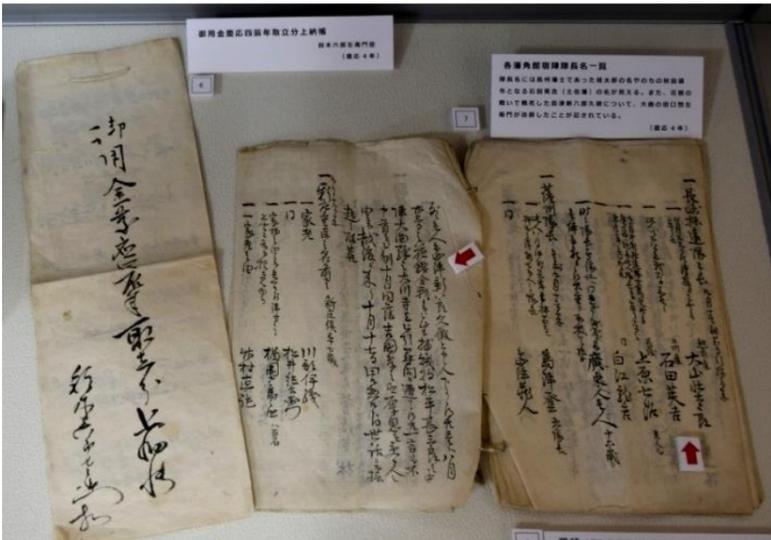
歴史のコトノハ ①

江戸時代の秋田藩では、一定地域のいくつかの村をひとまとまりとして、その中心となる村を親郷、そのほかの村々を寄郷と呼んだ。各村には村の代表である肝煎が 1～2 名、肝煎を補佐する数名の長百姓が置かれ、親郷となる村の肝煎は親郷肝煎として、藩からの伝達事項を寄郷各村へ伝え、寄郷内の訴訟の和解や調停を行い、また各村からの苦情・要望などを藩へ伝えた。



伊勢屋宛書状 慶応4 (1868)

庄内征伐に関する内容を含んだ書状。4月6日に命令された庄内征伐を受け、軍勢2隊（最終的に4隊）を出兵し、領内へ10万両の資金供用を命令されたことがわかる。平瀬家は伊勢から移り住んだと伝えられており、当時「伊勢屋」と称していた。



(写真左)

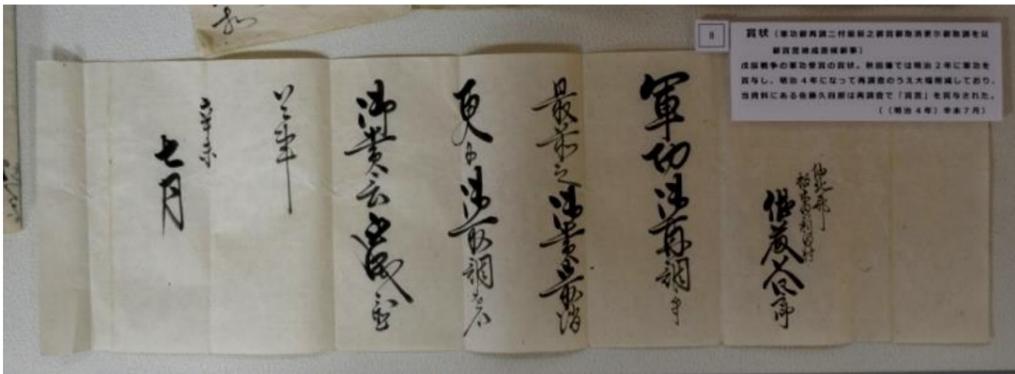
御用金慶応四辰年取立分上納帳 慶応4 (1868)

肝煎の鈴木六郎左衛門が村人たちからの御用金（戊辰戦争の軍資金）を取りまとめた記録。

(写真右)

各藩角館宿陣隊長名一覽 慶応4(1868)

戊辰戦争の際、角館に宿陣した新政府軍の各隊長のプロフィールが記された資料。隊長名には長州藩士であった桂太郎の名やのちの秋田県令となる石田英吉（土佐藩）の名が見える。また、花館の戦いで戦死した島津新八郎久徴について、大曲の田口惣左衛門が改葬したことが記されている。



賞状 明治4 (1871)

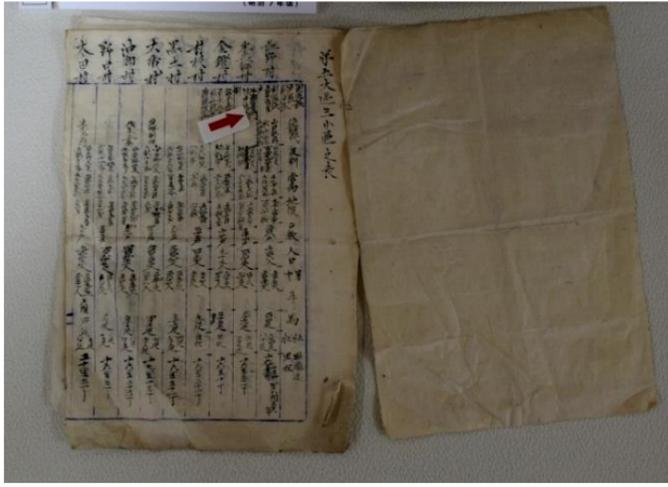
明治2年に行われた戊辰戦争の論功行賞について再調査し、明治4年に改めて秋田藩（同年11月に秋田県成立）から軍功に対して「賞言」が与えられた記録。

ぼしん 戊辰戦争

歴史のコトノハ ②

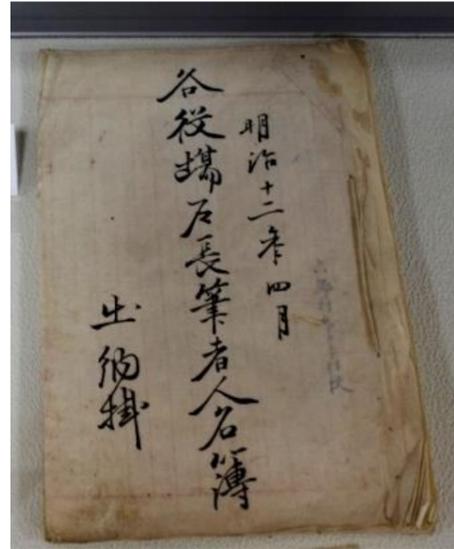
第15代将軍徳川慶喜が政権を返上し、天皇を中心とする新政府が誕生すると、慶応4(1868)年1月に新政府と旧幕府が鳥羽伏見(京都)で激突します。この戦いを皮切りに北越戦争(新潟、5~7月)、会津戦争(福島)を中心とする東北戦争(8~9月)へと拡大しました。秋田藩は新政府側についたことで、会津藩を救うために団結した東北諸藩と対立し、仙台藩・盛岡藩・庄内藩が秋田藩領内に進撃、現在の大仙市でも角間川・刈和野・境など多くの地域が激戦地となりました。

翌明治2(1869)年5月18日に五稜郭(北海道)が開城するまで、約一年半に渡って戦争が続きました。



第五大区三小区之表 明治7 (1874)

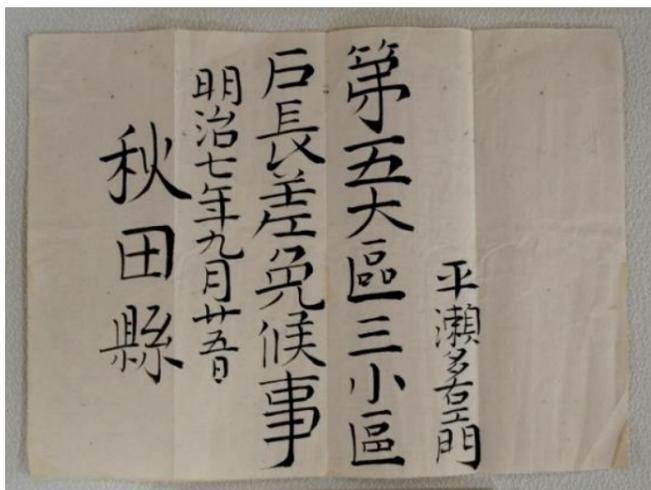
「大区小区制」が施行されることに伴って小区を構成する各々(村)の規模や人口などを書き留めたもの。第五大区三小区に含まれる村の一覧。三小区の戸長として平瀬多右衛門の名が見える。



各役場戸長筆者人名簿

明治12 (1879)

「戸長役場制」施行時における、それぞれの村の代表である「戸長」とそれを補佐する「筆者」を書き上げた名簿。



辞令 明治7 (1874)

平瀬多右衛門が戸長の職を免じられた辞令。



官山拝借牧場開設願 明治11 (1878)

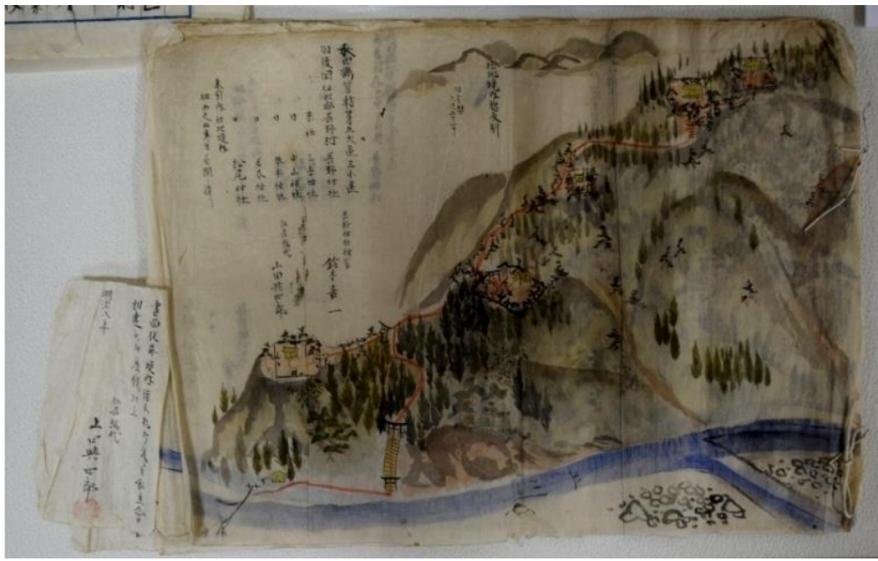
西長野村が馬産を行うための牧場用地として官山50町歩(50ha)を借用したい旨の願出書及び絵図。

こちょう こちょうやくば 戸長と戸長役場

歴史のコトノハ ㊦

明治政府は、明治4(1871)年の戸籍法制定にともない設定された区画(いくつかの村のまとまり)に、国等の自治伝達を目的に区域代表として戸長を置き、旧来の名主・庄屋(秋田県では親郷肝煎)を当て、その下に副戸長・村総代などを配した。明治5年に大区小区制が布かれると各小区(小区扱所)に、明治11年の郡区町村編成法施行後は各町村に戸長が置かれ、町村事務を取扱った。この時代の町村役場のことを戸長役場と言う。

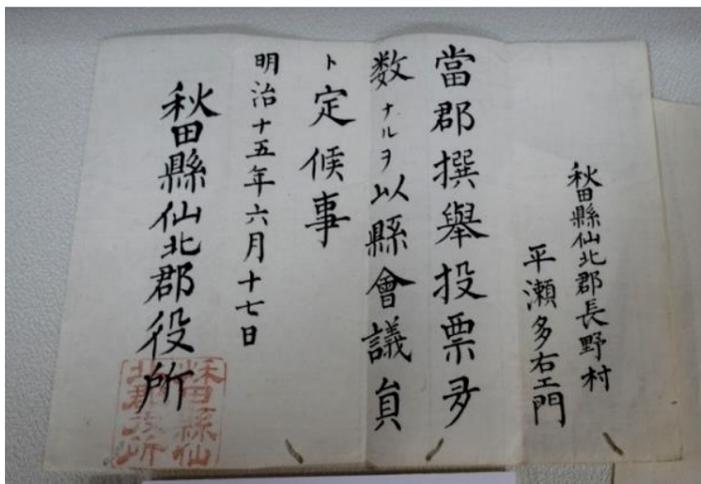
戸長役場は明治22年の市制町村制の施行と同時に廃止



秋田県管轄第五大区三小区羽後国長野村

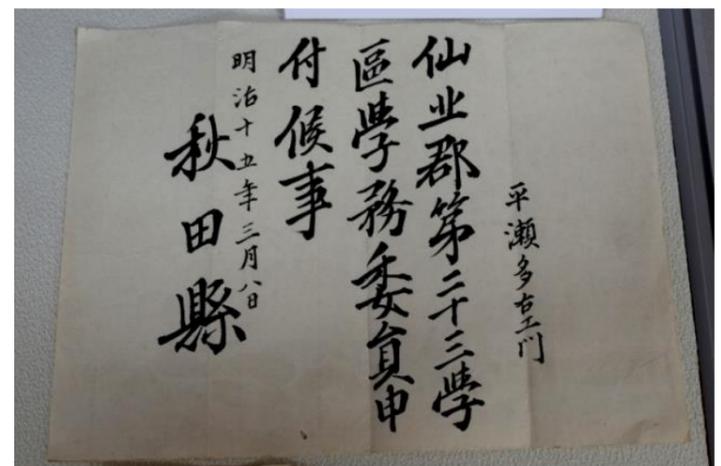
長野神社（境内図） 明治 8 (1875)

地租改正に伴い長野神社の境界確認を行った資料
(長野村・玉川右岸の社寺配置の絵図付き)。



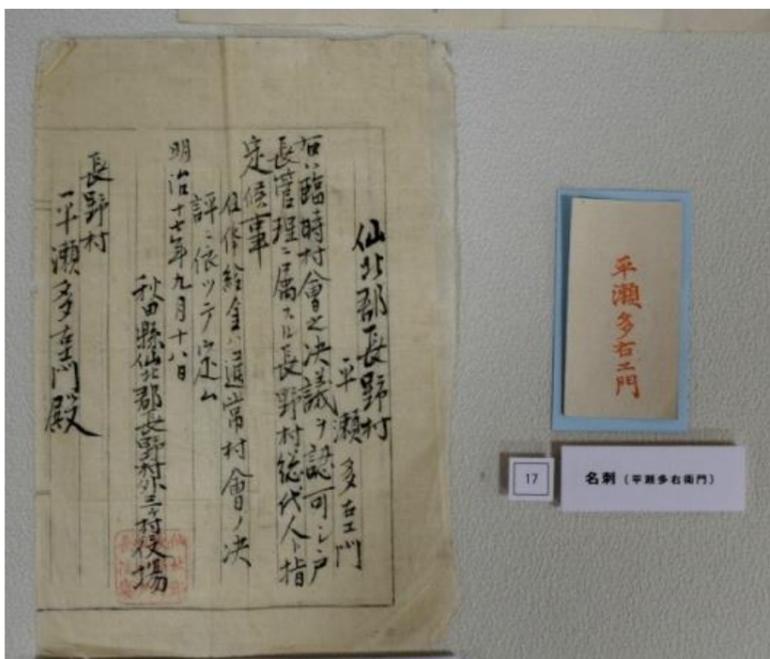
県会議員当選証書 明治 15 (1882)

平瀬多右衛門が秋田県会議員に当選（第 3 回）。仙北郡役所が交付した証書。



辞令 明治 15 (1882)

就学奨励や学校経営に重要な権限があった学務委員に選出された委嘱状。



(写真左)

辞令 明治 17 (1884)

平瀬多右衛門は長野村外三か村役場（広域の役場機構）の総代人（各村の代表）に選出された記録。その後、明治 24 年には長野村第 2 代村長となっている

(写真右)

名刺 明治

明治時代の名刺。「平瀬多右衛門」（裏は白紙）



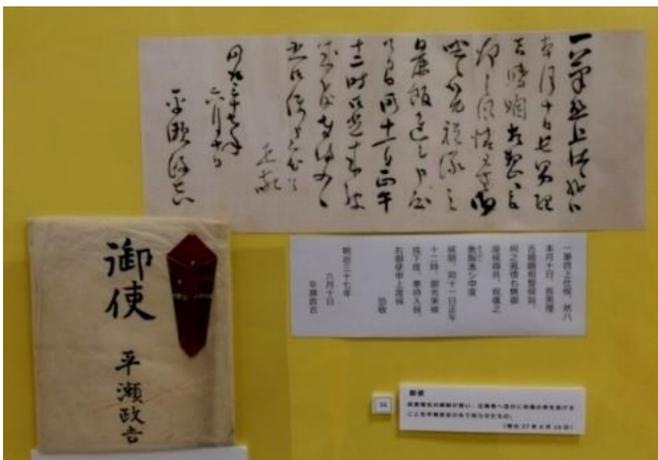
第一回 柵卸帳 大正 10 (1921)
柵卸帳。当時の平瀬呉服店で取扱った商品がわかる資料。



大福帳 大正 4 (1915)
平瀬呉服店の勘定元帳。

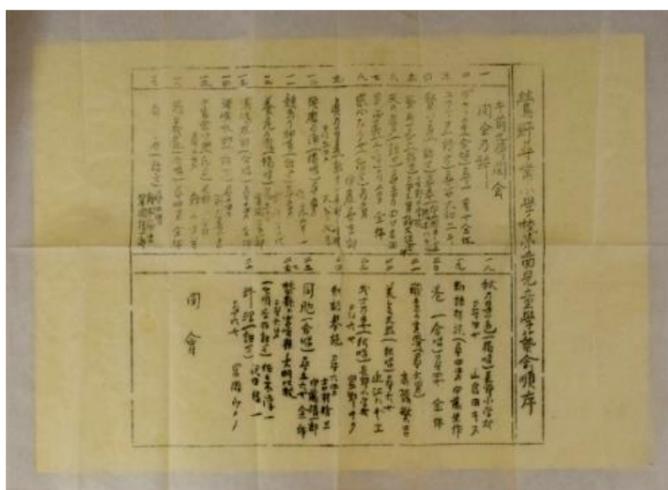


毛皮見本 戦前
注文をとるための見本。獣種不明。



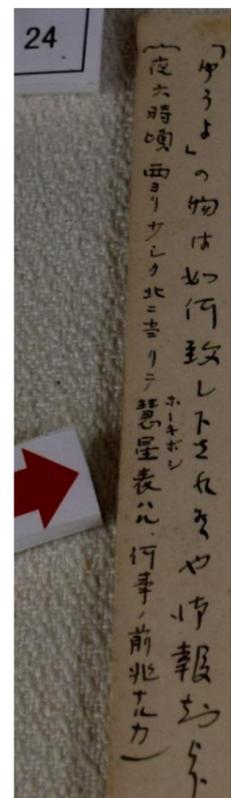
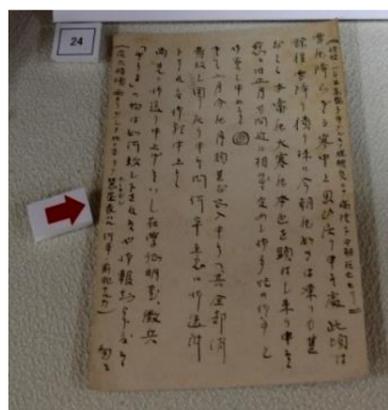
御使 明治 37 (1904)
長男理吉の婚姻が決まり、祝儀の席を設けることを近親者へ知らせたもの。

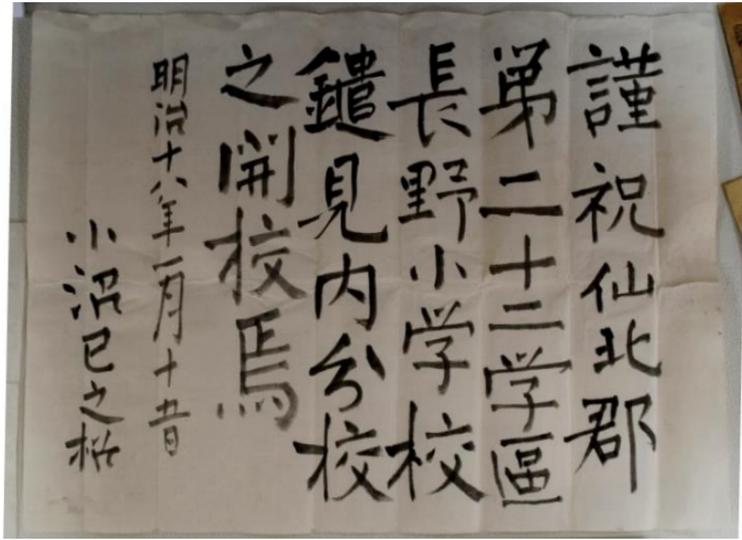
明治三十七年
六月十日
平瀬政吉
一筆啓上仕候、然ハ
本月十日、長男理
吉婚姻相整候旨、
何之風情も無御
座候得共、祝儀之
籠飯(あらめし)進シ申度
候間、同十一日正午
十二時、御光来被
成下度、奉待入候、
右御使申上度候
恐敬



鶯野尋常小学校第二回児童学芸会順序 明治 43 (1910)
長野村の北に位置する鶯野村に長野尋常小学校の分校として開校し、明治 25 年に独立校となるも、学芸発表には長野尋常小学校の児童も出演していることがわかる資料。

葉書 (平瀬三郎から平瀬政治宛)
明治 43 (1910)
秋田師範学校の学生平瀬三郎からの近況報告。ハレー彗星を見たとの記述あり。





祝 辞 明治 18 (1885)

長野尋常小学校鑓見内分校の開校の祝辞。小沼巳之松なる人物は不明。中仙町史によると長野尋常小学校鑓見内分教室は明治 23 年開校となっている。



マルナカ家庭薬 戦前

奈良県のマルナカ薬房の置き薬。
奈良の薬は古くから有名。

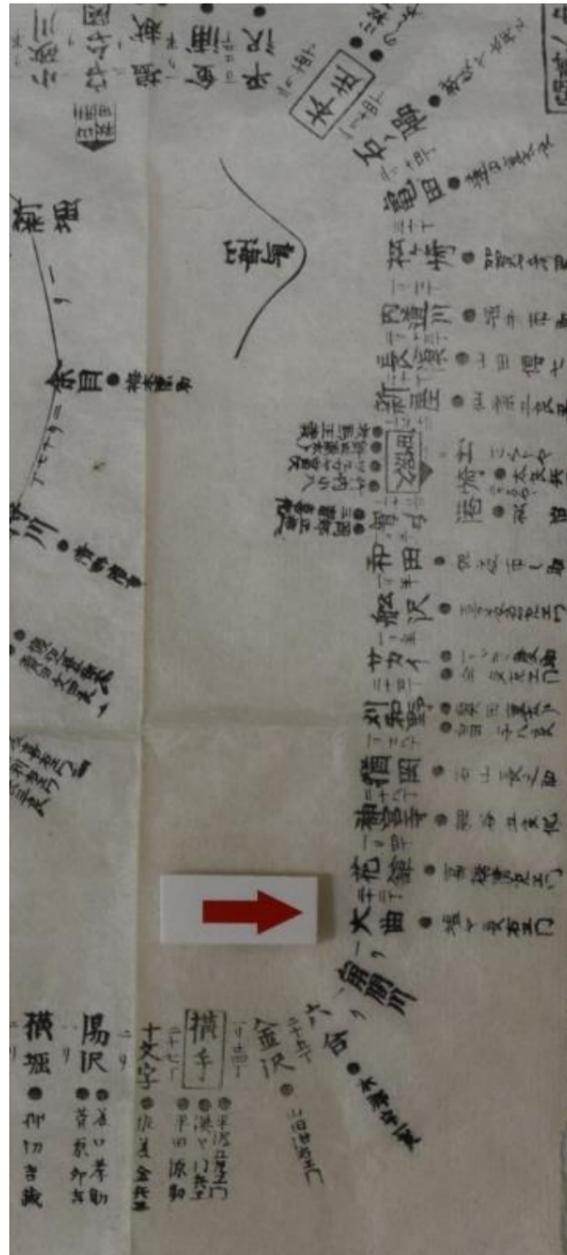


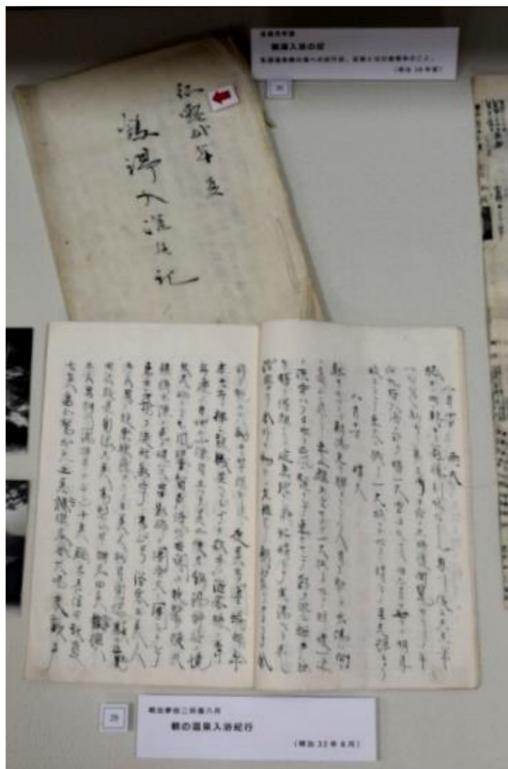
平瀬呉服店特價品値札 昭和初期

平瀬家の商号（マーク）「ヤマロク」のハンコが押さえている。

早見道中記 乙 明治 22 (1889)

明治中期、旅行のための駅（街道）や道のり、宿屋、さらには神社仏閣等を記載したガイドブックのようなもの。





征露二年 鶴湯入浴の記 明治 38 (1905)

平瀬家では毎年夏に 20 日間ほど湯治旅行にでかけている（鶴の湯、蟹場温泉、小安温泉など）。表題に「征露 2 年」と記載されている。

明治三十二卯歳八月 鶴の湯入浴紀行 明治 32 (1899)

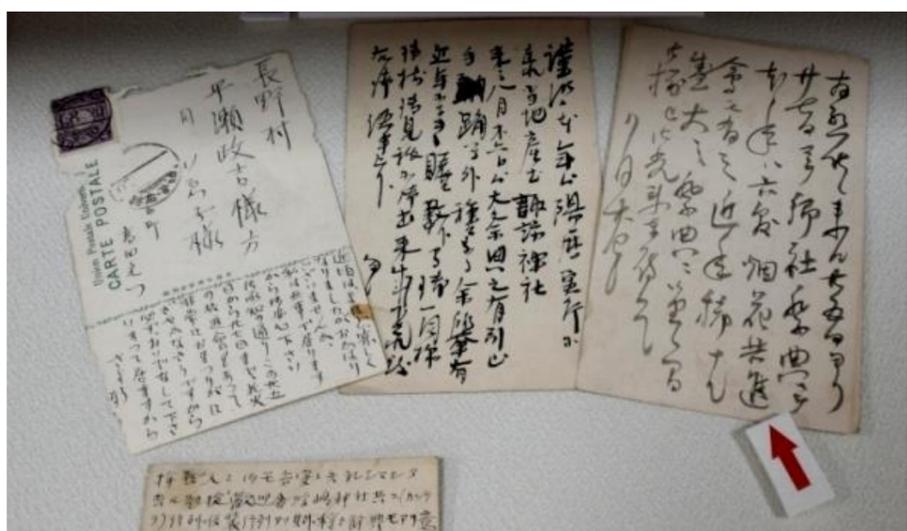


十和田湖遊覧絵葉書 昭和

ジャパンツーリストビューロ（現在の J T B）は外国人観光客を受け入れるための戦前の組織。国立公園の表記があることから十和田湖が国立公園に指定された昭和 11 年以降のものとなる。

葉書 3 通 明治 43 (1910)

第 1 回大曲の花火開催を伝える葉書。この年は 25 日から 27 日まで 3 日間開催。花火を歓待する気持ちが伝わる。



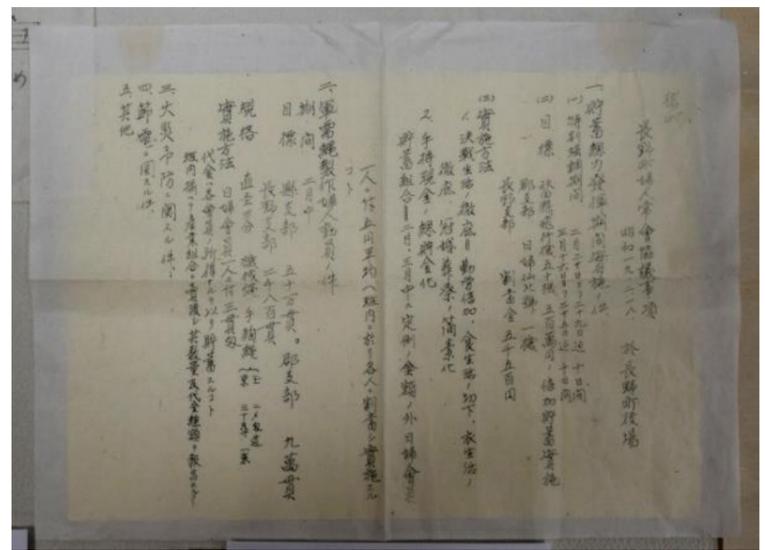
日露戦争実記 明治 37~38 (1904-1905)

戦記雑誌でベストセラーになった。平瀬家には 20 冊以上の同誌が残されていた。



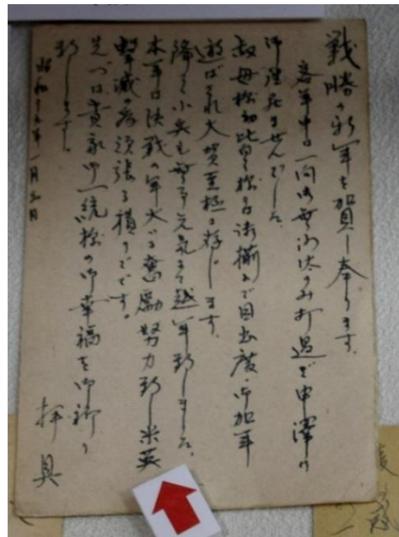
大日本婦人会の歌 昭和

大日本婦人会は、太平洋戦争期に新設された女性団体。国防思想、家庭生活刷新など国家総力戦体制に動員することを目指し活動した。

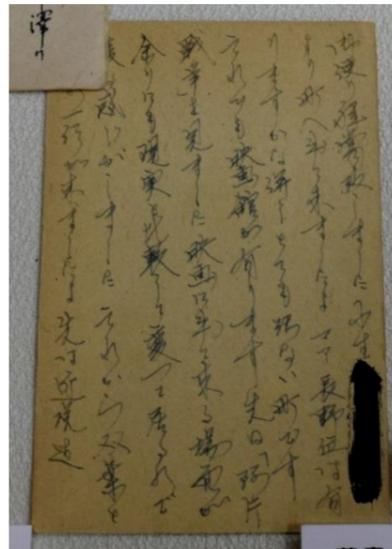


長野町婦人常会協議事項 昭和 19 (1944)

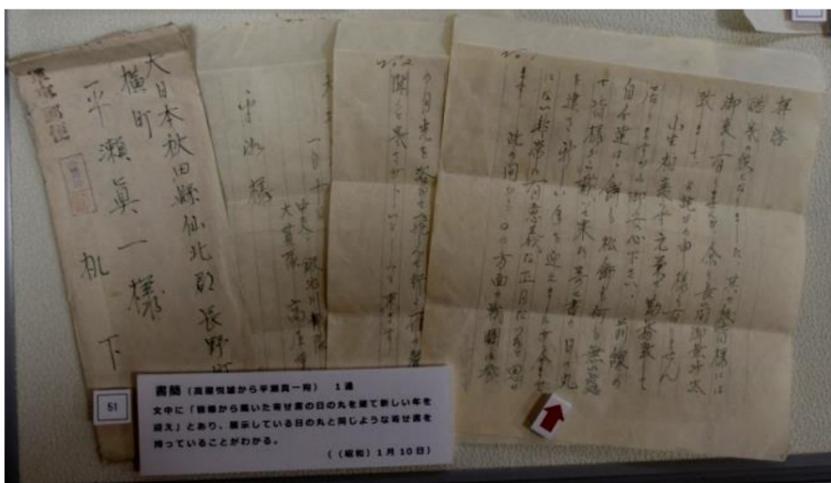
戦時下の銃後の活動を行うために組織の具体的な活動内容が記されている。



葉書
 (佐藤攻整から平瀬キミ宛)
 昭和 19 (1944)
 「本年は決戦の年 大いに奮励努力致し米英撃滅の為頑張る積り」とある。



葉書 1通
 昭和
 戦地からの便り。検閲で一部「黒塗り」されている。



書簡 (高屋悦雄から平瀬真一宛) 昭和
 「皆様から戴いた寄せ書の日丸を建て新しい年を迎え」とあり、展示している日丸と同じような寄せ書を持っていることがわかる。

寄せ書の日丸 (平瀬君宛) 昭和

出征する兵士 (長男の真一) に送られた激励の日丸。

